

関係各位

高知県病虫害防除所長

病虫害発生予察情報について

平成 28 年度病虫害発生予察特殊報第 2 号を送付します。

平成 28 年度病虫害発生予察特殊報第 2 号

1. 害虫名 ヨツモンカメノコハムシ (*Lacoptera quadrimaculata* (Thunberg))

2. 発生作物 カンショ

3. 発生経過

平成 28 年 8 月に高知県東部の露地カンショにおいて、ヨツモンカメノコハムシによる被害が確認された。現在、県内のカンショ生産における被害報告はほとんど無いが、県中央部と西部ではアメリカアサガオで発生が確認されており、県全域に広く分布しているものと考えられる。

本種は主に沖縄本島以南に分布し、カンショに被害を及ぼす。他県においては、長崎県、鹿児島県、宮崎県、愛媛県、山口県、静岡県、東京都で発生が確認されている。

4. 形態・生態

成虫はやや扁平な楕円形で、体長 7.5～9.0mm。体の中央部はやや艶のある茶褐色、周縁部は半透明で黄褐色で鞘翅の前方と後方の縁に黒褐色の大型斑紋がある（写真 1）。幼虫は、扁平な紡錘形で、体の周囲にトゲ（樹枝）状突起を有し、背面に脱皮殻や糞を背負う（写真 2）。卵は 4mm 内外の楕円形の膜に包まれる。

本種はヒルガオ科の植物に寄生する。成虫、幼虫とも葉を食害し、4月～11月まで3～4回の発生を繰り返す。

5. 被害

成虫、幼虫が葉を加害し、円形～不定形の穴の食害痕を残す（写真 3）。食害が酷くなると葉が網目状になるため、生育への影響が発生する。カンショでは塊根部への食害はない。

6. 防除対策

(1) ノアサガオやハマヒルガオなど、ヒルガオ科の雑草はヨツモンカメノコハムシの発生源となる可能性があるため除去する。

(2) カンショにおける登録薬剤は、スミチオン乳剤（1,000倍、収穫7日前まで、5回以内）、コテツフロアブル（2,000～4,000倍、収穫前日まで、2回以内）、アクセルフロアブル（1,000～2,000倍、収穫前日まで、3回以内）である。

